

佐倉南高校 家庭学習課題

教 科	国語		
科 目	古典 B (2年)		
対象学年・クラス	2年C組D組		
課題内容	<p>『源氏物語』「若紫」(教科書63ページ「日もいと長きに、」～65ページ8行目「涙ぞ落つる。」)の本文をノートかルーズリーフに正確に縦に書き写しなさい。</p> <p>教科書を持っていない人は別記の本文を参考にしなさい。なお、ノートのつかいかたについては右の通りとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">(ノートのつかいかた) ・ 一行目↓タイトル 『源氏物語』「若紫」 〔三行空ける〕 ・ (一マス空けて) 本文 (日もいと長きに、つれづれ) ※ノートの行のいちばん下までいっ たら改行。 〔前の行から三行空ける〕</p> </div>		
提出の有無	有	提出期限	学校再開後、最初の授業
評 価	評価対象とする。		
参考文献等			

源氏物語

若紫

紫式部

日もいと長きに、つれづれなれば、夕暮れのいたう霞みたるに紛れて、かの小柴垣のもとに立ち出で給ふ。人々は帰し給ひて、惟光の朝臣とのぞき給へば、ただこの西面にしも、持仏据ゑ奉りて行ふ尼なりけり。簾少し上げて、花奉るめり。中の柱に寄りゐて、脇息の上に経を置きて、いとなやましげに読みたる尼君、ただ人と見えぬ。四十余ばかりにて、いと白うあてに、痩せたれど、つらつきふくらかに、まみのほど、髪のうちくしげにそがれたる末も、なかなか長きよりも、こよなう今めかしきものかなと、あはれに見給ふ。清げなる大人二人ばかり、さては童べぞ、出で入り遊ぶ。中に、十ばかりにやあらむと見えて、白き衣、山吹などのなえたる着て、走り来たる女子、あまた見えつる子どもに似るべうもあらず、いみじく生ひ先見えて、うつくしげなるかたちなり。髪は、扇を広げたるやうにゆらゆらとして、顔は、いと赤くすりなして立てり。「何事ぞや。童べと腹立ち給へるか。」とて、尼君の見上げたるに、少しおぼえたるところあれば、子なめりと見給ふ。「雀の子を、犬君が逃がしつる。伏籠の内にこめたりつるものを。」とて、いとくちをしと思へり。このみたる大人、「例の、心なしの、かかるわざをしてさいなまるこそ、いと心づきなけれ。いづ方へかまかりぬる。いとをかしう、やうやうなりつるものを。烏などもこそ見つけれ。」とて、立ちて行く。髪ゆるるかにいと長く、めやすき人なめり。少納言の乳母とぞ人言ふめるは、この子の後見なるべし。

尼君、「いで、あなをさなや。言ふかひなうものし給ふかな。おのが、かく今日明日におぼゆる命をば、何ともおぼしたらで、雀慕ひ給ふほどよ。罪得ることぞと、常に聞こゆるを、心憂く。」とて、「こちや。」と言へば、ついあたり。つらつきいとらうたげにて、まゆのわたりうちけぶり、いはけなくかいやりたる額つき、髪ざし、いみじううつくし。ねびゆかむさまゆかしき人かなと、目とまり給ふ。さるは、限りなう心を尽くし聞こゆる人に、いとよう似奉れるが、まもらるるなりけりと、思ふにも涙ぞ落つる。